

# 児童生徒の学習状況についての実態及び学力調査の結果等を踏まえた領域・観点別の分析表（様式2）6年

学校番号154 大泉西小学校

## ① 学習状況についての実態

- ・学校の授業時間以外の勉強している時間が短い児童が多い。勉強時間が1時間未満の割合が都の平均を15.2%上回っている。また、読書を全くしない児童が38.8%、図書館に全く行かない児童が41.8%、新聞をほとんどまたは全く読んでいない児童が73.1%と高いことから、学習に向かう状況に置かれていないと考えられる。

## ② 全国の学力調査と学校の結果分析

（国語）

- ・全ての領域において平均正答率で都、全国の平均正答率を10%以上下回っている。標準偏差は共に都、全国を上回っている。習熟度に課題のある児童が多く、また、習熟度差の幅が大きい。

- ・観点別に見ると「話すこと・聞く能力」が特に都、全国の平均正答率を下回っている。

（算数）

- ・領域別に見ると、都の平均正答率を下回っているが、「量と測定」領域においてのみ全国への平均正答率を上回っている。標準偏差は都・全国とあまり差がなかった。

- ・観点別に見ると、全ての観点で都、全国平均正答率を下回っている。数値的には「数量や図形の技能」「数量や図形の知識・理解」の観点で6%以上下回っているが、正答率に大きく関わっているのは「数学的な考え方」ができていないことのように。

## ③ 領域別・観点別の分析

教科	領域別結果の分析	観点別結果の分析	領域・観点のクロス分析
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手の意図を捉えながら聞き、質問をする力や、目的や意図に応じて質問を工夫する力が不足している。</li> <li>・図表やグラフなどを用いた目的や、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える力が不足している。</li> <li>・文の中で正しく漢字を使えない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の情報から取捨選択するなどの判断をして聞き、それらを基に話すことが不十分である。</li> <li>・複数の情報から取捨選択するなどの判断をして読み、それらを基に書くことが不十分である。</li> <li>・言語についての知識・理解・技能が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す・聞く」「書く」学習では、単一の課題や条件下ではなく、複数の情報を得ながら書いたり、多くの資料から必要な情報を選択した上で話し合ったり、書き表したりする活動を取り入れていく必要がある。</li> <li>・読書を推奨する。</li> <li>・言語の技能を高めるために、指導方法の工夫や学習時間を確保する必要がある。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数と計算」領域の理解が不十分である。除法の式の意味の理解する力や、示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する力が不足している。</li> <li>・「図形」領域の図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文の場面を理解し、複数の情報の中から取捨選択して立式・判断する力が不足している。</li> <li>・時間をかけて試行錯誤するような問題に最後まで取り組む力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図表や数直線等を活用して題意を正確に読み取り、中心的な情報と付加的な情報を整理した上で見通しをもって解決できるよう、指導を重ねる。</li> <li>・考えを記述したり話したりする活動を多く設ける。</li> <li>・すぐにあきらめず、ヒントカードなどから最後まで問題解決に取り組めるよう指導する。</li> </ul>

